

東海・北陸地区国立大学一入試広報の取組 ⑦

—参加者および相談者からみた進学説明会の分析—

高木 繁（名古屋工業大学）

業者主催の進学説明会と自前で開催した進学説明会のブース対応者の学年属性と学力属性を分析し、説明会の評価を行った。その結果、バス動員が主体となっている業者主催の説明会は、学年属性・学力属性ともに必ずしも満足すべき状態ではないことが確認された。国立大学と私立大学が連合して独自開催した説明会（工学系，top19）では、ターゲットの設定が適切であったことにより、学年属性・学力属性ともに十分に満足できる結果であることが確認された。

1 序論

入試広報手段として、説明会における対面広報は重要な位置を占めている。業者が開催する合同説明会・国立12大学のような大学の連合が主催する合同説明会など、様々な形態がある。国公立大学は予算削減や人員不足のために、参加する説明会を絞らざるを得ない状況になっている。よって、各合同説明会について評価していく必要がある。東海・北陸・信州地区の12の国立大学が連合している国立12大学の広報活動についてはすでに大学入試研究ジャーナルで2回報告している。¹⁾ 東海地区には、国立12大学とは別に私立大学や公立大学と連合した合同説明会を、業者を全く利用せずに自前で開催している。本研究では、名古屋地区で開催された合同説明会について、参加者の属性を見ることにより、それぞれの説明会の評価を行うことを目的としている。特に、業者を利用しない合同進学説明会で、国公立と私立が連合する意義について考察していく。

1.1 業者主催の合同説明会の分類

名古屋地区で行われた業者主催の大規模な以下の5つ、(1) 進学フェア（ベネッセ）、(2) 大学フェア（ライオン企画）、(3) 主要大学説明会（DJC：主要大学と略す）、(4)

夢ナビ（フロムページ）、(5) マイナビ進学フェスタ（マイナビと略す）、の説明会について更に分類する。(1)～(3)はいわゆる受験情報の提供という通常のスタイルの説明会であるが、(4)と(5)は模擬授業（講演）が主体になっており、(4)は学問分野の紹介、(5)は職域の紹介が中心となっている。単純に区分けすると、(4)と(5)は受験生ではなく、高1や高2をターゲットとした説明会だといえる。表1に各説明会の入場者数を示す。マイナビは2012年度が初である。

説明会名	2011	2012
(1) 進学フェア	2147	3095
(2) 大学フェア	2204	2618
(3) 主要大学	1250	1600
(4) 夢ナビ	6862	7521
(5) マイナビ	未実施	2822

また、(1)、(4)、(5)は高校丸抱えのバス動員が中心になっているのに対して、(2)と(3)はバス動員を全く行っていない。

1.2 大学自前開催の説明会

1 大学で説明会を開催したところで、集客は期待できない状況であり、護送船団方式を

とる必要があることは各大学共通の認識である。国立12大学は国立大学の良さをアピールするための連合であり、その合同進学説明会について、実施内容の紹介、参加者数・アンケート結果の分析からの有効性の検証を2回報告した。¹⁾ 地域活性の観点で考えると国立大学だけではなく、私立大学との共同広報が重要になる。愛知県には愛知県私大広報会という連合があり、私大のみで「大学展」という合同説明会を開催している。国公立と私立の連合としては京都コンソシアムなどがあるが、単一の県内のみという構成が多い。

東海地区では、8年前から「工学部離れ」を防ぐために国立・私立が連合した説明会を開催している。最初は5大学でスタートしたが、3年前から12大学の連合で河合塾を会場として合同説明会を行っている。参加大学は以下の通りである。(名古屋大学は、協賛はしているが、メンバーではない。)

【東海地区12大学工学系学部コンソシアム】

国立大学：岐阜大学，静岡大学，豊橋技術科学大学，名古屋工業大学，三重大学，（名古屋大学は資料参加）

私立大学：愛知工業大学，大同大学，中京大学，中部大学，豊田工業大学，南山大学，名城大学

2011年度は6月5日に、2012年度は6月3日に開催した。参加者数は、2011年度は363組、2012年度は358組であった。(業者主催のカウントの仕方とは違い、1家族は1組とカウントしている。) 3年前に南山大学が初めて参加した年は460組であったが、それ以外は毎年360組程度の参加数である。内容は、基調講演2つ(工学系の学科選び、先輩からのアドバイス)と個別相談コーナーのみであり、各大学の紹介プレゼンは行っていない。告知方法は、国立12大学の合同説明会と同様に、工学系コンソシアムのHP、各大学

のHP、河合塾の夏期講習のDMへのチラシ挿入、高校へのチラシの配布である。

2012年度に新たな試みとして、国立12大学と愛知県内の主要な公立大学・私立大学との連合による合同説明会(Top19)を愛知大学の名古屋(笹島)キャンパスで6月17日に開催した。工学系の説明会はあくまで工学系に絞った説明会という位置づけであるのに対して、国公立とその併願関係にある主要な私立大学が合同で行うという、ある程度学力の高い受験層にターゲットを絞った説明会である。参加大学は以下の通りである。

【Top19】12大学・主要大学

国立12大学：愛知教育大学，金沢大学，岐阜大学，静岡大学，信州大学，富山大学，豊橋技術科学大学，名古屋大学(資料参加)，名古屋工業大学，浜松医科大学，福井大学，三重大学

公立大学：愛知県立大学，名古屋市立大学

私立大学：愛知大学，中京大学，豊田工業大学，南山大学，名城大学

詳細については2.2で述べるが、参加者数は600組を超えていた。内容は、3つの基調講演 文系のための学科選び(愛知大学)，経済学とは何か(名古屋市立大学)，理系のための学科選び(名古屋工業大学)と個別相談コーナーのみであり、工学系同様に各大学の紹介プレゼンは行っていない。この説明会の告知は、国立12大学のHP²⁾と東海地区主要大学のHP³⁾・各大学のHP、および高校へのチラシ送付のみである。チラシは10000枚印刷し、約700校に送付した。1大学あたりの負担費用は、7700円であった。

2 結果と分析

2.1 ブース対面者の属性

名古屋工業大学がブースで対応した参加者について、まず学年別の属性を調べた。保護

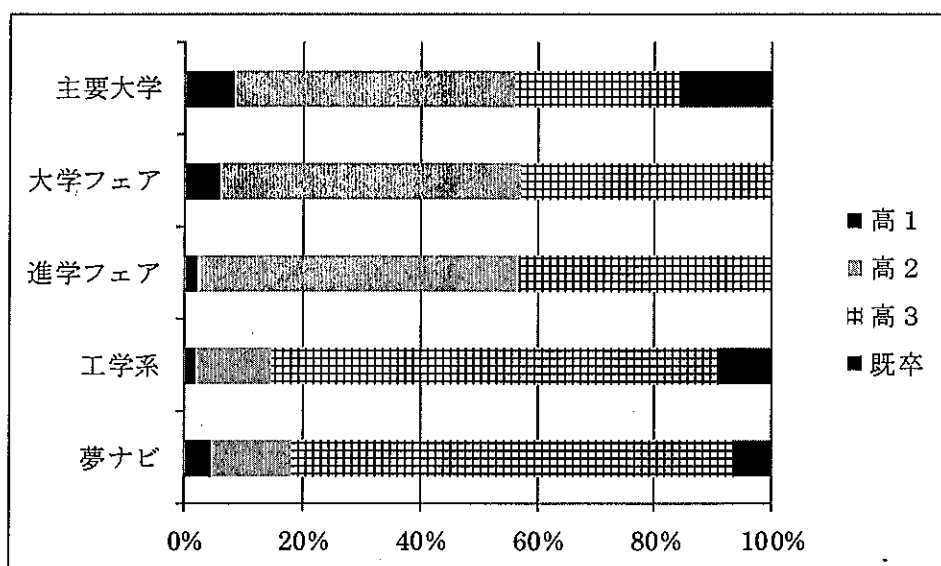


図1 2011年度対応者の学年属性

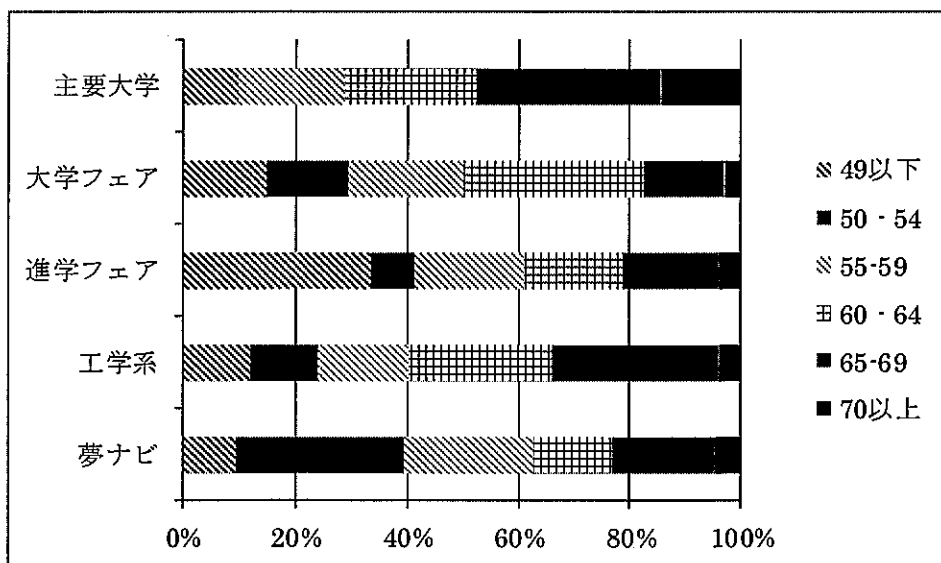


図2 2011年度対応者の偏差値属性

者が来た場合には、実際に受験する子供の学年を記載してもらった。

図1は2011年度の対応者の学年別属性である。工学系と夢ナビにおいて受験生（高3と既卒）の割合が非常に高いことがわかる。夢ナビは、全体の参加者では受験生の割合はあまり大きくないので、本学だけの動向であるかもしれない。対応者に確認したところ、バス動員で来た受験生は1人もいなかった。例年、主要大学も受験生の割合が高いのだが、

2011年度は開催日が河合塾の全統模試と重なってしまい、主催者の発表では受験生の割合が例年よりも低かった。名古屋工業大学も同様に受験生の割合が低くなっている。図2は対応者の学力層の分布を示したものである。数字は高校入試の際の偏差値を示している。偏差値は河合塾の中学統一テストにおける各高校のボーダーラインの値を用いた。高校入試の偏差値が、その高校の進学実績に直結しているわけではないが、進学実績

は年により大きく変動するのと大学のレベル分けが非常に難しかったので、単純に偏差値を尺度とした。

本学の在学生の出身校から考えると、偏差値が60以上の高校が大部分を占める。ただし、建築・デザイン工学科が工業高校を対象としたAO入試を行っているため、偏差値49以下の工業高校の学生も入学している。他の説明会では工業高校生も相談に来るが、バス動員主体である進学フェアと夢ナビでは、工業高校の生徒は1人もいなかった。

進学フェアでの対応者は、偏差値の下位層

の高2が非常に多く、高校から渡されたマニュアル通りの質問をするものばかりであった。主催者の報告によると、バス動員以外の参加者の会場への滞留時間が非常に短く、開始30分後にはアンケートを出して会場から出て行ったものが多かったそうである。単に、資料を収集しに來ただけの参加者が多かったということであろう。主要大学と工学系は成績上位者が6割以上であり、大学フェアも5割以上が上位者になっている。バス動員主体

の説明会で、どの高校を動員できるのかということで学力分布は変わってくるのだが、各説明会のバス動員の高校のリストを見ると、成績上位（特に偏差値65以上）の高校が入っていない。上位の高校は、生徒の自主性を重んじるという姿勢なのであろう。

図3と図4は2012年度の結果である。オープンキャンパスの日程変更により、本学は進学フェアへの参加を取りやめている。マイナビは、基本的に低学年へのキャリア形成を前

面に打ち出した説明会なので、高1が7割以上であった。学力層で見ると、中下位層が多いことがわかる。バス動員された高校をみると、就職や専門学校の比率が高い高校が多かったので、当然の結果であるともいえよう。

夢ナビは受験生の割合が2011より大きく低下している。これは、会場を名古屋の中心部から不便な場所（ポートメッセなごや）に変更したため、塾や補習授業の関係で移動時間の制約が生じてしまい、参加できなかった

たのではないかと考えている。実際、ブース

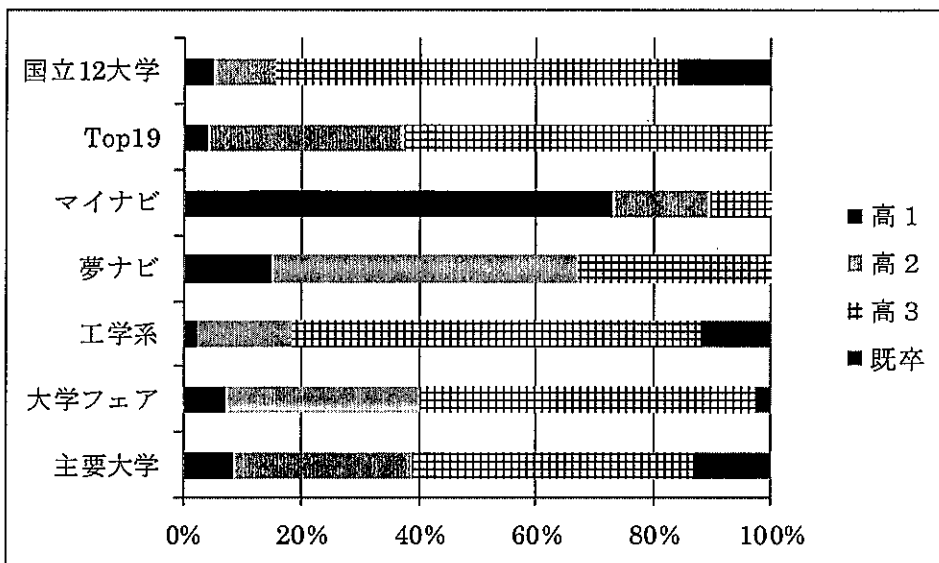


図3 2012年度対応者の学年属性

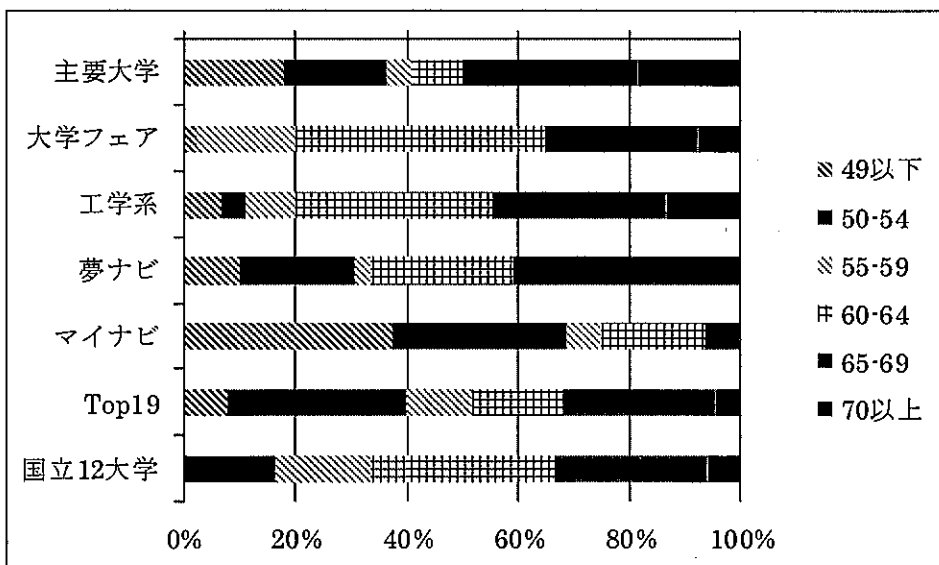


図4 2012年度対応者の偏差値属性

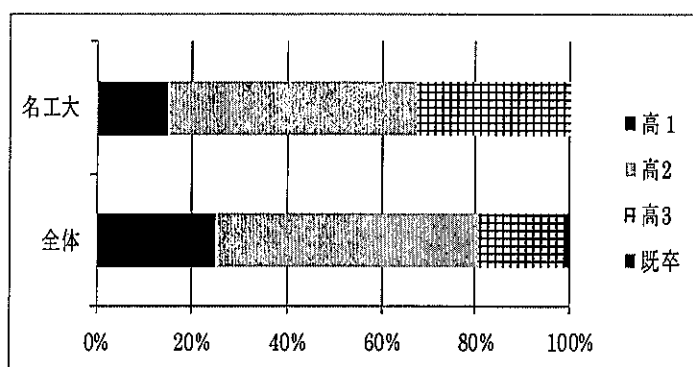


図5 夢ナビ (2012) の全体との比較

で対応した受験生は、バス動員の高3が半分近くを占めており、2011年度とはかなり違う状況であった。

図5に夢ナビの参加者全体の分布と名工大の分布の比較を示す。本学の対応者の高3の割合が多くなっているが、それほど大きな違いはない。ただし、学力層に関しては本学対応者の高3もそれほど低くはなかった。進学フェアよりも偏差値の高い高校をバス動員で数多く集めることに成功したということであるともいえる。

主要大学は、模擬試験とのバッティングを避けたことにより、受験生の比率が従来通りに戻った。工学系は受験生が8割以上という点はかわらなかったが、学力層に関してはかなり高い方にシフトした。大学フェアも、受験生の割合が高くなっただけではなく、学力層も高くなっている。国立志向のさらなる高まりと、地元志向・安全志向の現れだろうと考えている。これらの結果から、バス動員主体の説明会とそうでない説明会で

は、様々な違いが生じていることが確認される。

2.2 連合主催の説明会の評価

私立大学と連合して開催した2つの説明会（工学系およびTop19と略す）について、国立12大学の説明会と比較しながら検討を加えていく。工学系は完全に定着している説明会

であるが、Top19は初めての開催であり、かつ前日がベネッセの進学フェア（および本学の第1回オープンキャンパス）という悪条件の元での開催であった。しかし、国立12大学主催の合同進学説明会としては最も多い参加者数となった。それぞれの説明会でのアンケート結果から、参加者の学年属性を比較してみる。図6にその結果を示す。

国立12大学の説明会でも、年々保護者の割合が増えているが、Top19はかなりの割合を占めている。工学系は例年10%未満であり、それほど変化はない。工学部志望は男子が多いこともあるが、愛知大学の保護者会が同日に開催されていたため、ついでに参加した保護者が多かった可能性が大きい。保護者の男女比は1：2であり、母親だけでなく父親もかなり参加していた。夫婦そろって子供と共に説明会に参加するということが増えていることがわかる。

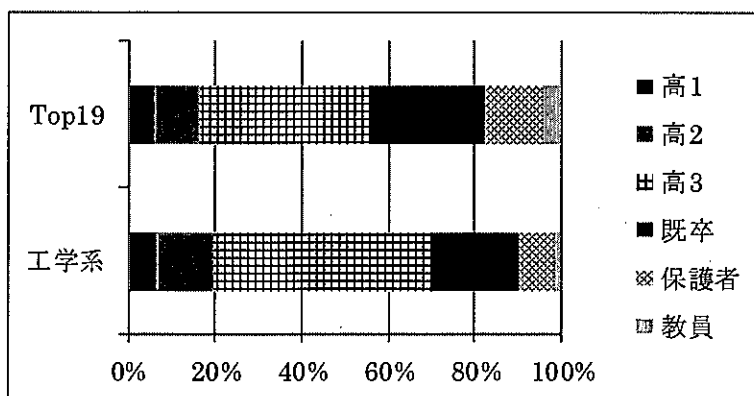


図6 説明会全体の参加者属性

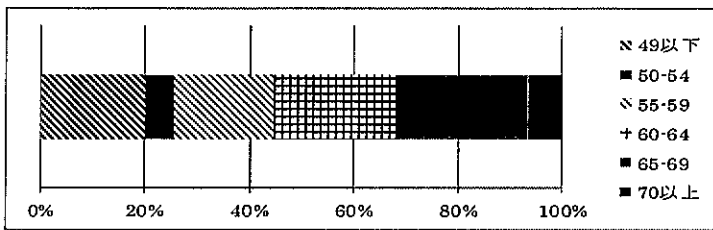


図7 工学系全体の偏差値属性

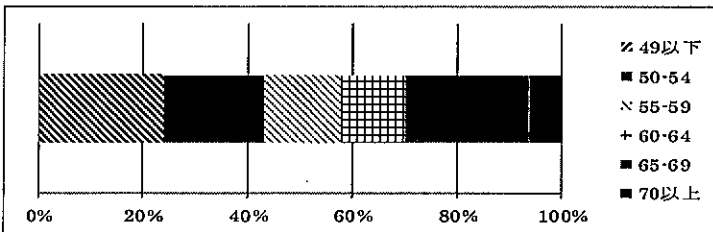


図8 Top19 全体の偏差値属性

受験生の割合がかなり高いことは共通しているが、Top19では既卒の比率が25%近くにもなっている。河合塾を会場とした説明会では、業者主催の説明会に比べて既卒の割合が高く、会場の性格からして当然と考えられる。しかし、Top19は愛知大学を会場としており、直前に工学系や進学フェアがあるのにもかかわらずこれだけの数の既卒者が参加した理由については明確ではない。国立12大学の秋の説明会も受験生が主体であるが、既卒者の割合は工学系の説明会と同程度である。参加者の県別の分類では共に東海4県が中心である。特に工学系では、参加大学が東海地区に限定されていることもあり、東海4県以外の参加者はほとんどいない。それに対して、Top19は少ないながらも、東京、神奈川、兵庫、中国地区、四国地区からの参加があった。Top19の基調講演は3つとも部屋（140名教室）に入りきれないほどの人数が聴講していた。工学系の基調講演も毎年250名以上（参加者の半分以上）が聴講しているが、受験生にとっては早い時期に分野の特色をわかりやすく講演してもらえと言うことが好評なのであろう。

図7に工学系の参加者全体の偏差値属性の結果を示す。偏差値49以下の層も20%近い

るが、半数以上は工業高校の学生である。工業高校卒の入試に関する質問がほとんどで、目的意識ははっきりとしていた。工学系の参加大学は、様々な偏差値の大学の集まりであるが、各ブースでほとんど途切れることなく相談者がいた。参加者の意識もしっかりしており、説明会としては大成功だと考えている。図8にTop19の偏差値属性を示す。工学系に比べると比較的下位層が多くなっている。私立大学で指定校推薦に関する相談がかなりあったので、その影響がでているのかもしれないが、工学系人気により工学系の方が学力の高い層が集まるようになったと考える方が妥当であろう。

3 まとめ

合同説明会への参加は、受験生の確保が最大の目的となっているので、受験生の占める割合があまり小さいと魅力がないことになる。この点では、バス動員を主体とする業者主催の説明会は当たり外れが大きい。また、学力層に関しても、それほど期待できないケースがある。自前の説明会は、成功した場合には学年・学力ともに業者主体の説明会とは比較にならないほど有効なものとなる。ただし、ターゲットをかなりきちんと設定した説明会でないと成功は難しい。国立と私立が連合して行った工学系とTop19の説明会は、合同進学説明会の成功例であると考えている。各大学の参考になれば幸いである。

参考文献

- 1) 「東海・北陸地区国立大学 - 入試広報の取り組み ③ - 国立12大学および理工系コンソシアムによる広報活動の結果報告と分析」, 高木繁, 大学入試研究ジャーナル, 20, 203-208(2010). 「東海・北陸地区国立大学 - 入試広報の取組 ⑤ - 一連

合としての合同説明会の有効性についての検討」, 高木他, 大学入試研究ジャーナル, 21, 213-218 (2011)

- 2) <http://www.12daigaku.jp/th12-pc/> (最新更新日 2013/12/15)
- 3) <http://www.leading11.jp/leding11/> (最新更新日 2013/12/16)